


学位論文審査の結果の要旨

専攻	資源循環学専攻	氏名	ANYSIA HEDY BINTI UJAT
審査委員	主査 教授 中島 千晴 副査 教授 塚田 森生 副査 教授 松井 宏樹		
論文題目 (題目変更の有無) 有・ <input checked="" type="radio"/> 無	Systematics studies of plant pathogenic Coelomycetes (植物病原性分生子果不完全菌類の分類学的研究)		
(論文審査の結果の要旨) <p>本論文は日本国内に分布する植物病原糸状菌のうち、樹木に発生する病害の主要な病原菌である分生子果不完全菌類の分類学的研究を中心に行っている。分生子果不完全菌類はその形態的特徴の乏しさから、その分類学的研究は困難なものとして知られる。課程修了予定者は、従来の標本や菌株に基づいた形態学的検討に加え、近年の菌類分類学において標準となっている多遺伝子座分子系統解析手法による解析結果を統合し、分類学的を行うことにより菌類体系的的研究を実施している。</p> <p>結果として、<i>Elsinoë</i> 属では3新種、1新組合せを記載するとともに、標本の検討から複数の分類学的処理の必要な種を見だし命名法上の処理を行った。<i>Sphaerulina</i>属では、7新種を記載することを提案し、2種を<i>Septoria</i>属から転属再記載することを提案している。また、本属が海外からの報告と同じく、木本植物を主要な宿主とすること、特定の植物科がその種分化の上で重要な役割を果たしていることを明らかにした。近縁の<i>Septoria</i>属ではタイムに病害を引き起こす種について検討し、既知の北米を中心に分布する種とは異なるとして新種として記載した。さらにはバラ科植物、特にサクラ類の枝に病斑を生じること無く生息している<i>Diaporthe</i>属菌の多様性を明らかにした。また、新種として記載する必要のある系統を見いだした。他の農業上重要な宿主との関係においては、バラ科植物からダイズへの病原菌の移動の可能性を示した。</p>			

審査内容と審査委員会の判断

申請者の論文を審査委員全員が精査した。本論は十分な基礎的及び専門的知識に裏付けられ、日本国内の重要植物病害病原菌の診断の基礎となる分類学的資料の作成による防除への貢献、アジア圏の菌類多様性の提示という明確な目的を示しており、学位論文として妥当な内容である。

また、国内の代表的な遺伝資源保管機関および菌類標本庫に収蔵されている菌株および標本を基に、緻密な基準標本とその菌株の精査、多遺伝子座分子系統解析といった近代的な菌類体系学的研究方法、実験計画が実施されており、得られた結果に対して妥当な分析と考察が論理的になされている。

一部は権威のある国際学術雑誌に論文として公表もしくは受理されており、学術的な新規性や価値とともに、分類学的研究を行う際に必要な菌学ラテン語、英語に対しても十分な外国語能力を有していることが認められた。

結論

審査委員会は本論文が学位論文に値するものと判断した。